



ガードレールの色といえば、白というのが一般的であろう。しかし、山口県で生まれ育った私の記憶では、ガードレールといえば黄色であった。県内でも国



写真1 黄色のガードレール






交省が管理する国道2号線などは白いガードレールが多いが、山口県が管理する国道・県道ではほとんどが黄色のガードレールである。

なぜ山口県のガードレールが黄色なのか。それは1963(昭和38)年に山口県で開催された第18回国民体育大会にあたって、ガードレールの色を県の特産品で県花にもなっている夏みかんの色にしようということになり、黄色に塗り替えたのが始まりだという。山口県全域のガードレールを、国体に間に合わせるために短期間で塗り替えるということは、業務ではなく住民のボランティアだったのだからかと思いきや、山口県土木建築部に問い合わせしてみた。しかし残念ながら工事記録もなく、塗り替え時の状況を知る人も少なくなっ

てきているため、誰がどのような方法で塗り替えていったのかわからなかった。いずれにしても、県下全域のガードレールを黄色に塗り替えたことで、山口県の典型的な道路の風景は、背景となる緑の山々に黄色のガードレールの帯が連続するものとなった。

ガードレールの標準色について、『景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン』が2004(平成16)年3月に策定され、それに対応して『防護柵の設置基準』が「白を標準とする」から「良好な景観形成に配慮した適切な色彩とするものとする」と改訂された。そのため、ガイドラインで示されたグレーベージュやダークブラウンのガードレールが全国的に多くなってきているようである。しかし、山口県土木建築部発行の『道路整備技術の手引き(平成20年4月)』には、「車両用防護柵は山口県色(黄色)の塗装仕上げを原則とする」との記述があり、今後も黄色のガードレールで整備することを原則としている。なお、表1にガ

表1 防護柵の色とマンセル値

色の名称	色とマンセル値
ダークブラウン	 10YR 2.0/1.0
グレーベージュ	 10YR 6.0/1.0
ダークグレー	 10YR 3.0/0.2
山口県色(黄色)	 8.5YR 6.8/13
道路標示黄色	 5.5 YR 6.5/12

イドラインで示された色と山口県色を表しているが、山口県色(黄色)は、黄色というよりは、道路標示の黄色のようなオレンジ色に近い色である。

黄色のガードレールは、道路だけ見ると黄色が強すぎて奇異な印象を受けるかもしれないが、山口県出身の人にとっては違和感はないようである。自然豊かな山口県の風景には、夏みかんの色以外にも、春には菜の花、夏にはひまわり、秋には稲穂の色や紅葉時期の木々の色などがあり、黄色のガードレールが周囲の風景に溶け込んでいっているのではないかが私の考えである。

河村進一 編集委員

(写真提供・取材協力)山口県土木建築部
道路整備課)